

2016年3月4日 金曜日

○ 開会挨拶



慶応義塾大学名誉教授土居範久先生からの挨拶を頂きました。制御系にも情報システムが入ってくる時代になってきたので、国として制御システムのセキュリティやマネジメントをしっかりとやっていくことが必要です。実機を使ったテストを行い何が起きているかが分かるかどうかを実験しています。



日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）下村正洋氏の挨拶を頂きました。JNSAではSECCONというコンテストを行っています。今年1月に決勝戦を行い、1位が韓国で、日本は4位と6位に入ることができました。人材育成について、働き口とか処遇とかを考えないと若い人が集まってきません。官が率先して人材育成をがんばってほしい。



総務省大森一顕氏からの挨拶を頂きました。総務省の取り組みの1つ新しい課題をいうために来ました。公衆無線LANのセキュリティについて話題になっています。オリンピックに向けて各地で整備していますが、警察と認証のあり方を検討しています。それ以外に民間の無料WIFIの整備についてセキュリティガイドラインを作ろうとしています。

○ 協賛企業プレゼン



8社による企業プレゼンが行われました。参加企業は、パロアルトネットワークス合同会社、トレンドマイクロ株式会社、IPA、ネクスト・イット株式会社、PROTECTWISE、株式会社ソリトンシステムズ、テクマトリックス株式会社、NEC（ビデオ参加）です。

○ 講演 3



テーマ「IoT時代のサイバー攻撃対策の課題とは」について、小山覚氏による講演が行われました。

システムとしてのセキュリティ対策が ICT 関係者の課題だと思えます。特に、社会インフラ、制御系システムなどの重要インフラのリスクが高まっています。例えば、交通標識への攻撃や無防備な Web カメラの監視画像を掲載したサイトなど問題になっています。通信事業者の役割としては、直接攻撃、メールや Web 経由、踏み台、をブロックする仕組みを作っ

ているが、今後は無数の脆弱な危機を踏み台にした攻撃に対する対策が課題になっています。たとえばセブン銀行が DDoS 攻撃により通信帯域が圧迫され通信品質が悪化した事例があります。また IP 電話の不正利用、ホームルータを踏み台にした攻撃などもおきています。ホームルータのアップデートはむづかしいので、売り切りではなくサービスとして提供していくことが重要ではないかと考えています。こういった対策から逃れた野良 IoT 対策は産官連携で検討していく必要があると考えています。NTT コミュニケーションズ内でのセキュリティ対策は、ブラックリスト、総合ログ分析、sandbox によるメール検査、などを行っているが、重要なことは社員教育であると結ばれました。

○ 講演 4



「組織通信の概要提案と組織暗号の開発・普及に向けて」というテーマで中央大学研究開発機構教授 辻井重男氏、中央大学研究開発機構専任研究員 才所敏明氏により講演が行われました。まず辻井重男氏により、セキュリティ対策の3つのレベル、国家レベル・組織単位・個人ごとに国際的視野の中で考えることが重要だと説明されました。標準型攻撃に備えて組織対応型 S/MIME インフラの標準化・普及を提案されました。

また、今後個人間通信と異なる価値観を有する組織間通信の役割が情報社会で比重を増すことを述べられ、組織通信の概念を提案されました。そして考案した組織内の情報漏えい防止のマネジメント的観点から、組織管理形態と楕円暗号の方式的構造を対応させた方式について説明されました。

続いて才所敏明氏により自治体向け及び医療機関向け組織暗号紹介活動について紹介されました。自治体向け活動の実証実験として避難行動要支援者情報の安全な送信と市民セン

ターへの安全な配信、医療機関向け活動の実証実験として電子カルテの安全な共有を挙げられました。その後、機関側の反応・感想の要約について説明され、最後にこれらを踏まえた組織暗号の活用展望について述べられました。

○ 講演 5



テーマ「通信事業者におけるサイバー攻撃の現状と対策」について、山田明氏による講演が行われました。

2015年にDDoS攻撃により多くのWebサイトが被害にあっています。KDDIに対するサーバー攻撃も2012年から増加しています。サイバー攻撃の背景には攻撃インフラの充実、ツール・情報・攻撃インフラを取引するアングラマーケット、攻撃代行サービスによるマネタイズ、サイバー攻撃のカジュアル化があります。サイバー攻撃に対策するためには、基本対策以外に、情報を収集することが必要ですが、通信事業者としては利用者の通信の秘密を守る義務があります。

これに対する回答の一つが利用者参加型の攻撃対策です。例えばDBD攻撃対策としてDBD攻撃対策フレームワーク（FCDBD）を構築して、ユーザ参加型の観測網を作っています。FCDBDの実証実験として1000名超の利用者に参加してもらった結果が紹介されていました。400万以上のWebサーバーにアクセスしてもらって24件の不正と考えられるWebサイトを発見することができたそうです。利用者参加型の対策はセキュリティの啓蒙・教育にもなると報告されました。

○ SecDogoグッズ

今年からシンポジウムのロゴが新しくなりステッカーが配布されています。意見交換会に参加された方には手ぬぐいもあります。

